

ドモ、赤白雜下スルモノ多シ、
〔内科秘録十一〕婦人崩漏。

崩漏ハ、又血崩トモ、崩中トモ謂フ、産後ニ血崩スルハ胞衣ノ分離シタル跡ハ、皮ヲ剝ギタルヤウニ赤肌ニナリ、血脈ノ破レタル處ヨリ出ル血ナリ、水ノ如クニ泄下シテ、廁モ眞赤ニナリ、一二升モ出タルヤウニ見ユルモノナリ、凝血ノ雞肝ノ如クニ成リテ下ルハ、一旦子宮中ニ留滯シテ、時ヲ移シタルナリ、陣痛スルコト臨産ニ異ナラズ、卒ニ色ヲ變ジ、唇舌刮白ニナリ、脈沈微、四時微冷、自汗如流、須臾ニシテ發熱シ、數日ヲ經テ熱解スルト雖ドモ、脈尙浮弦ニシテ、耳鳴眩暈、虛里悸動、人迎ノ脈ハ外ヨリ見ユルホドニ動キ、起居スル毎ニ呼吸促迫シ、後ニハ爪甲薄クナリ、或ハ缺ケテ黃胖ノ如クニ變ズ、即血虛黃胖ナリ、産後ニハ限ラズ、平人モ適血崩スルコトアリ、其正候ハ産後ニ發スル者ト同ジコトナリ、凡ソ亡血スル者ハ、諸症退キテモ兎角疎慵ニナリ、臥スコトヲ嗜ムモノナリ、或ハ遂ニ心氣病ニナルモアリ、

治法ハ賀川家ニ遇崩ノ術アリ、救急ニ備フベシ、西洋ニテ陰門一杯ニ綿絮ヲ螺旋リ入レテ止ルノ法アリ、

産前腹痛

〔昆陽漫錄〕弄痛

女科百効全書曰、十月未足、臨産腹痛、或止痛不定、名曰弄痛と、弄痛とはよく名けたり、
〔塵塚談上〕孕婦臨月に至り、腹痛むやいなやあはて、穩婆を呼ぶべからず、頻りに腹はり痛強くなり、分娩とおもふ比に呼ぶべし、穩婆を早く呼と、役にもたぬ事を云ちらし、彼是と差圖をなしたり、産婦をなでさすりすれば、産婦は今に生るゝ事と心得、無理に生出さんとして、難産に變ずる事まゝあり、産は天地を大父母として生るゝ事なれば、人力の及ぶ所にてなし、俗言の天道様しだいに任すると、大安産疑なし、是天道をたうとみ、身を大事にするの術なり、婆